

観覧車

御津中・3 若月 愁英

感じていることは
自分だけのものだ

回る廻る

回る廻る
観覧車に乗った自分
きつと始まる
回る廻る

この箱から降りたくない
そう思っていた自分
気づけば離れていく鳥たち
観覧車は静寂につつまれている
でも

回る廻る
のぼっていくゴンドラ
今は守られている自分
たくさんの鳥が自分を見ている
風がゴンドラをつつむ
回る廻る

きつといつかは降りなくちゃいけない
見てきた今までを
リュックサックにつめこんで
「ありがとう」
支えていてくれたみんなに
そう言って
僕は一步をふみだした
「大人」になるために

回る廻る
頂上に向かうゴンドラ
着実に一歩ずつのぼっていく
たくさんの鳥が周りを飛んでいる
回る廻る

回る廻る
頂上についたゴンドラ
横殴りの風が吹く
地震のようにゆれるゴンドラ
でも
今、自分が見ているもの